

地域内ライダーシステム 事後評価要約版(28年度)

支局	No.	自治体・協議会名		二次評価	※参考付記 第三者評価委員会における 主な委員コメント
		事業概要			
愛知	5	新城市地域公共交通会議 西部線、塩瀬線、つくであしがる線(隔年評価)		各路線ごとに地域が主体となった「路線を守り育てる会」により確保維持改善を行っていることは評価します。一方で、機能している会が一部となっており結果的に利用者の減少を招いていることから、ご入札が必要です。 今後は、近隣市町と連携を更に強め地域間幹線系統である田口新城線の方向性を検討した上で、地域住民との協働により公共交通の見直しや利用促進を行う組織の位置づけを明確にし、地域間幹線系統も含めた地域公共交通網形成計画を策定することを期待します。	・様式変更の意図が伝わっていない。 ・ライダーのみではなく、幹線を含めたネットワーク全体の内容を記載してほしい。 ・スクールバス運行に伴う利用者減少であるならば、スクールバスを含めた検討を行ってほしい。利用者が減少することも想定し、あらかじめ対応策を考慮しておくことが必要。 ・評価指標に基づき評価を踏まえ、今後どのような見直しを行っていくかが見えない。 ・評価結果を地域へおろし、意見交換を行ってほしい。 ・本省様式別添1-2の地域の交通の目指す姿に記載される内容がH20年頃の内容となっており、古いのではないかと。 ・市民へ評価の意味や反映の仕方をきちんと説明する必要がある。 ・路線再編に伴い減少したのであれば、その路線を含め評価することも必要。
		・西部線 利用者数:H28年度 3,209人(前年度3,480人) 収支率:H28年度 6.90%(前年度7.27%) ・塩瀬線 利用者数:H28年度 5,423人(前年度6,298人) 収支率:H28年度 4.85%(前年度8.61%) ・つくであしがる線 利用者数:H28年度 1,176人(前年度976人) 収支率:H28年度 2.57%(前年度2.40%)		(課題)バス利用状況の把握と今後のバスについて 平成28年度のバス利用者は、前年度を大きく下回った。広大な地域に点在する高齢者の通院・買物や、小中学生の通学の手段としては公共交通は不可欠なものであるが、人口減少が続く本市では、大幅な利用者数の増加を見込むことは容易ではない。(対応方針) 利用者の増加をはかるため、「地域自治体制度」における自治振興事務所との連携を図ること及び「守り育てる会」の開催を行い、地域ごとのバスへの要望を確認しつつ、ダイヤ改正等を行っていく。 新城名古屋高速バスの利用者の増も必要な課題であり、お出かけマップの配布、定期券・回数券の発行、新たなバス停留所を確保し、新城への来訪者を増やす。 新城市地域公共交通網形成計画を策定し、バス利用者が利用しやすい地域公共交通の実現を図る。	